

2

資金調達

Foundation of Business



- 1 ビジネスに必要な資金はなんだろう？
- 2 企業はどのように資金を集めるのだろう？
- 3 集めた資金は必ず返さなくてはならないのだろうか？



ビジネスを行うには**資金**が必要です。たとえば小売業の場合、商品を仕入れるための資金や、店舗を借りるための資金が必要です。企業にとって、資金をいかに調達するかということはとても重要です。ここでは、ビジネスに必要な資金について学習しましょう。

運転資金がないと、ビジネスがうまくいっているのに、倒産することもあるんだね。



1 ビジネスに必要な資金

商品の仕入代金のほか、手形や借入金の支払い、家賃や光熱費などの経費、従業員の賃金など、企業が日々のビジネスを行うのに必要な資金を**運転資金**といいます。ビジネスでは、売上などでお金を得る前に資金が必要となるため、運転資金は、実際に売上代金が回収されるまでにビジネスを行うのに必要な資金ともいえます。

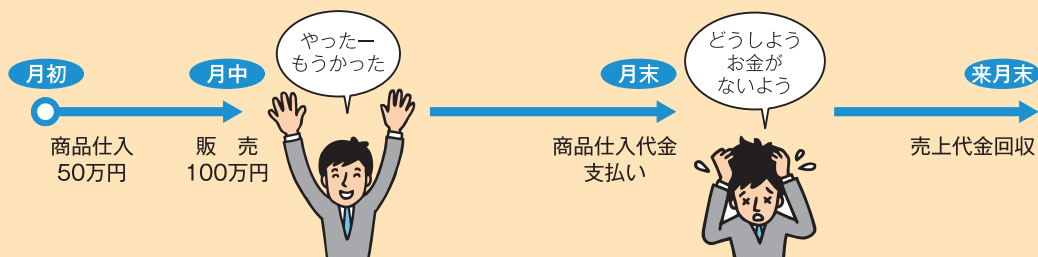
CASE

CASE 売上代金回収のタイムラグ

小売業の場合、商品売るには商品を仕入れるための資金が先に必要です。仮に商品を 50 万円で仕入れ、それを 100 万円で売った場合、売った相手がすぐに代金を支払ってくれず売上代金の

回収は来月以降になるということがあります。しかし、次の商品を仕入れなければ商売ができないので、商品を仕入れるための資金が次の売上に先がけて必要になります。

■売上代金回収のタイムラグ



また、企業が建物や機械、備品などの設備の購入をするときに必要な資金を**設備資金**といいます。運転資金と異なり、設備の購入資金は多額であり、設備購入は頻繁に行うものではありません。しかし、設備が古くなったり、最新の設備を投入することによりビジネスがさらに発展したりするので、資金ぐりを考え、計画的に設備投資をしていくことが大切です。

2 資金調達の方法

企業は、資金調達の目的、金額、必要とする期間、自社の信用度、調達のための費用などを考え、調達方法を選択します。

1 借り入れと社債の発行

資金を外部から調達する方法としては、個人や金融機関からの**借り入れ**や**社債**の発行などによる方法があります。

1 金融機関からの借り入れ

金融機関から資金を調達する場合は、借入金なので返済の義務があり、利息も支払う必要があります。民間の金融機関では、取引実績のない企業にいきなり資金を貸し付けることは少なく、これまでの取引実績などをみて貸し付けを行います。また、保証人や担保の有無、事業計画や経営成績なども貸し付ける際の判断基準になります。金融機関にも都市銀行、地方銀行、信用金庫などさまざまな種類がありますが、自社の規模にあった金融機関と日ごろから信頼関係を築くことが大切です。

また、起業時など、民間の金融機関から借り入れるのが難しい場合、公的金融機関から借りられることもあります。



コラム 開業資金

起業して新たにビジネスをはじめるために必要な資金のことを開業資金といいます。開業資金も運転資金と設備資金に分けられますが、店舗の借り入れや備品の購入、会社設立費用など創立・開業にかかわる資金が多く必要になります。また、

起業してしばらくはなかなか売上が上がらないものなので、運転資金も余裕をもって用意する必要があります。起業にあたっては、運転資金と設備資金をいかに調達するかが重要です。

① お金を借りた人が、返済しない場合などに、その人にかわって返済をする義務を負う人のことです。

② 借入金を返済しない場合にそなえ、金融機関に提供するものなどで、不動産や株式などがあります。

社債や株式の発行による資金調達は直接金融だったね。▶ p.93,94



③ 日本政策金融公庫などがあります。

社債の発行は企業の借金、株式の発行は企業の資本増加という違いがあるんだね。



❶ 起業時には親族などに引き受けてもらうこともあります。

Word

*1 株式公開

少数の株主に限られていた株式を新規発行などによって証券市場に流通させ、広く一般から株主を募ることをいいます。公開により株式が証券市場で売買可能になります。

❷ クラウド (crowd) は群衆という意味でファンディング (funding) は資金提供という意味です。

2 社債の発行

社債とは、金銭の払い込みと引き換えに企業が発行する債券です。企業にとっては借入金の一つなので、返済（償還）も利息の支払いも必要ですが、金融機関からの借り入れと違い、社債は多数の投資家から広く資金を調達することができます。また、償還期間が長いので長期の資金を調達することができ、利率も自由に決められるうえ、利払いも半年に一度など支払日が限られています。

2 株式の発行

株式会社の場合は、株式を発行して資金を調達する方法もあります。株式の発行による資金調達は、返済する必要がない点、また広く資金を集められるという点が有利です。ただし、出資者の側からみればリスクが高く、大企業など実績があり、広く株式市場などで取引がされている株式でない場合は、出資者は限られます。

また、株主は配当金の受け取りや**株式公開**、株価の上昇を期待しており、経営に対しきびしい目を向けています。

3 資金を集めるためのその他の方法

起業をするときなど、企業の信用度が低い場合は、ビジネスに必要な資金を外部からなかなか調達できないことがあります。そのような場合には個人の自己資金でまかなったり、親族など自分をよく理解し、ビジネスを応援してくれる人から資金を提供してもらったりします。また、ビジネスが順調に成長している企業では、これまでにたくわえた利益から事業に必要な資金をまかなえます。

さらに、最近では**クラウドファンディング**で資金を集める方法もあります。ビジネスをはじめたい人が、インターネットを通じてアイデアを公開し、一般の人々から少額ずつ資金を提供してもらうというしくみです。一人あたりの資金提供額は少ないですが、全体としては大きな額になります。ただし、資金が目標額まで集まらない場合もありますし、商品が完成しなかったり、完成しても売れなかったりした場合、提供されたお金が返せず、信用を失うことになります。



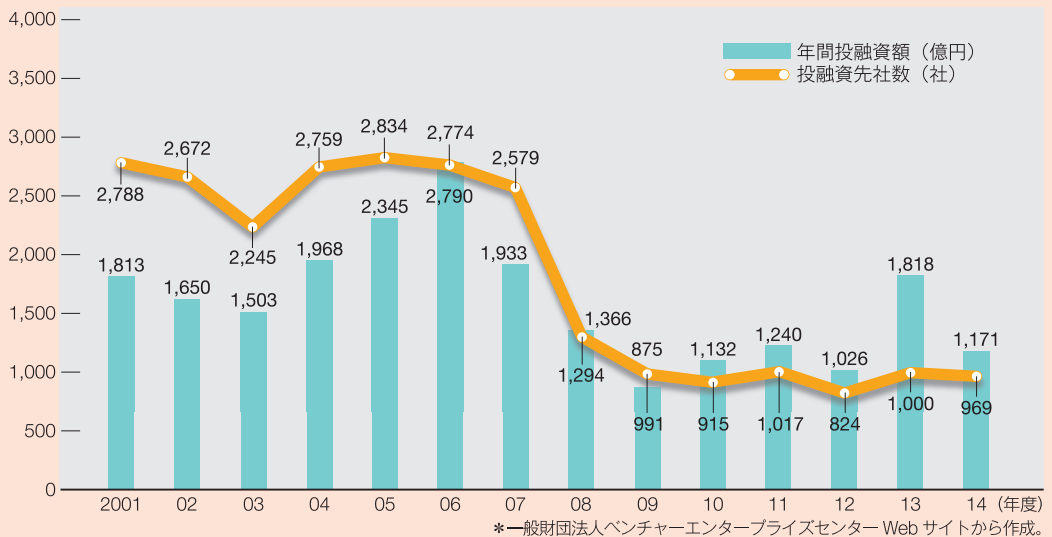
革新的な技術やビジネスモデルを持った創業間もない中小企業をベンチャー企業といいます。そのベンチャー企業に対して投資を行うことを業務とする企業をベンチャーキャピタルといいます。ベンチャー企業のなかで、将来成長する見込みが高いベンチャー企業がその投資の対象になります。

ベンチャーキャピタルは、未上場のベンチャー企業に対して、株式を取得することで投資を行います。株式が公開された場合に得られる株式の売却益をおもな収入源としているため、経営者に対

して経営アドバイスを行ったり、人材を確保したりするなど、ベンチャー企業が順調に成長し早期に株式公開することをめざします。

ベンチャー企業が成長するかどうかは未知数であり、金融機関にとっては貸し付けのリスクが高いため、ベンチャー企業が金融機関から融資を受けることは容易ではありません。そのため、ベンチャーキャピタルの存在は、資金を調達しようとしているベンチャー企業にとってたのしい存在になっています。

■ベンチャーキャピタル投資動向



確認問題

資金調達

1—次の文章を完成させましょう。

企業のビジネスに必要な資金には、日々のビジネスを行うために必要な①)と、設備投資のための②)があります。資金調達の方法には、金融機関からの③)、④)の発行、⑤)の発行などがあります。

調べ学習

●—それぞれの資金調達方法の長所と短所をまとめてみましょう。